

移動の脱炭素化

公用車への次世代自動車導入

市役所

- 平成30年からFCVを公用車として導入しています。
 - イベント等で使用する機器に給電・展示
 - 通常の公務でも活用
- 札幌市が保有する全ての公用車※について、2030年度までに次世代自動車に切り替えます。

※除雪車や消防車など、切替が困難な特殊な自動車を除く。



FCV・EVなどは、非常用電源としても活用することが可能であり、平成30年の北海道胆振東部地震による大規模停電の際には、市役所本庁舎で実施した携帯電話の充電サービスの電源として、札幌市公用車のFCVが活用されました。

次世代自動車とは？

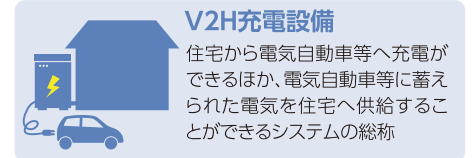
電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、ハイブリッド自動車(HV)、天然ガス自動車、クリーンディーゼル自動車などの総称。



次世代自動車の導入支援

市民・事業者

市民及び市内の事業者を対象に、EV・FCV等の次世代自動車や、V2H充電設備等の導入費の一部補助を実施しています。



V2H充電設備

住宅から電気自動車等へ充電ができるほか、電気自動車等に蓄えられた電気を住宅へ供給することができるシステムの総称

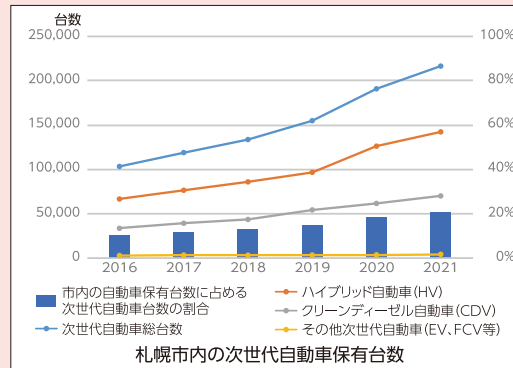
公共交通機関の利用

市民・事業者・市役所

乗合バスやデマンド交通※などの適切な役割分担により、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組むほか、公共交通の利用に対する意識の醸成を図ります。

また、地下鉄・JR駅へのエレベーター設置や、路面電車の低床車両やノンステップバスの導入促進、ICTを活用した公共交通情報の提供・交通モード間の連携など、公共交通の利便性向上を目指します。

※予約型の運行形態による乗合輸送サービス。



移動の脱炭素化に向け、2030年に市内の自動車保有台数に占める次世代自動車の割合を6割まで引き上げることを目指しています。